

令和元年度六戸町総合教育会議議事録

期 日 令和元年 9 月 26 日（木）午後 1 時 00 分

場 所 六戸町立図書館会議室

案件議事 六戸町教育大綱について
教育大綱の具現化（案）について

開会時刻 午後 1 時 00 分

閉会時刻 午後 3 時 00 分

出席者の氏名

町 長 吉田 豊

教 育 長 瀧口孝之

教育委員 吉田尚子、山本晃広、下田 勝、保土沢まり

校長会会長 工藤年浩（六戸中学校）

総務課課長補佐 円子国浩

説明のために出席した者の氏名

教育課長 長谷 智

指導室長 坂本和康

教育課課長補佐 松橋紀幸、吉田和彦

会 議 録

町長あいさつ

(吉田町長)

本日は、皆様お忙しい中、六戸町総合教育会議にご出席、お集まりいただきありがとうございます。ごさいます。

また、教育委員をはじめ関係者の皆様には日頃から当町の教育行政の充実・発展にそれぞれの立場の中でご尽力いただいておりますことに、心からお礼申し上げます。

今年で5年目を迎えました総合教育会議でございますが、今年度は、町校長会の会長であります工藤校長先生と町町長部局からの職員を加え、皆様方といろいろな議論をさせていただき、六戸町の教育をさらに前へ進めていきたいと思っております。

さて、現在、小子高齢化や高度情報化が急速に進展し、ますますグローバルな社会活動が展開される中で、教育を取り巻く環境は大きく変化してきております。

六戸町では「教育力20%アップ」を目標に掲げ、スポーツや文化を含め、いろいろな分野で2割アップのための人材育成や「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな人材の育成を目指しておりますが、「いじめ・不登校」など様々な課題があることは認識しており、これらの課題解決に向け、積極的に施策を展開していかねばならないと考えております。

本日は六戸町教育大綱についての案件がございますが、各分野における施策の具現に向け共通確認をしながら、活発で有意義な議論を交わしていただきますようお願いいたします。開会に当たっての挨拶といたします。よろしく願いいたします。

議 事

六戸町教育大綱及び教育大綱の具現化（案）について

(瀧口教育長)

「六戸町教育大綱」及び「教育大綱の具現」について、限られた時間ではありますが、少し時間をいただいて説明させていただきます。

一通り説明した後にご質問やご意見等を頂戴したいと思いますので、よろしく願いいたします。

まずは「教育大綱」についてですが、当町の「教育大綱」は、2015年（平成27年度）4月に、2020年度（令和2年度）までの期間のものを、町長が定めております。

内容につきましては、第4次六戸町総合振興計画に基づき、当町の教育の振興に関する総合的な施策について、その目標や根本となる方針を定めたものであります。

ちなみに、現在、(仮称)「第5次六戸町総合振興計画」(2021年度からのもの)の作成に向け、様々な視点から検討が進められているところであり、その計画が示されるのと同時に、「教育大綱」も示されるものと思っております。

この「教育大綱」を具体的に進めるために、教育委員会では、「令和2年度教育大綱の具現」を示して、各種施策を展開することとしております。

資料（教育大綱の具現）の1ページをご覧ください。

これまでにないスピードで変化する現代社会において、様々な課題が生じており、その課題解決に向け、知恵や行動力を身に付けることが我々に求められており、とりわけ、教育については、学校教育、社会教育、スポーツの3つの分野に分けて体制を組織し、新しい時代の要請に適切に対応するべく施策を展開しております。

なお、社会教育関連ではありますが、具現の中では、図書館を別枠として設定しております。

各分野の「主な取組」について、かいつまんで説明いたします。

はじめに、1番の学校教育についてですが、小学校においては来年度（令和2年度）から、中学校におきましては令和3年度から、新しい学習指導要領が全面実施となります。

当町では、「ふるさと六戸町を愛し、その時代が求める社会に貢献できる人材育成」を目指すこととしており、昨年度(1)として、「六戸町で育てたい子ども像」を示しております。詳細につきましては、後ほどご覧いただければと思います。

2ページになりますが、(2)の「確かな学力の育成」について、主な取組の①の学力向上推進委員会(町内教職員)による先進校視察研修及び授業研究ですが、吉田町長の口添えもあり、昨年度から、秋田県東成瀬村立小中学校に六戸町の各校の校長先生をはじめ、教諭を派遣し、研修した内容を各校に持ち帰って、授業改善等に大いに役立てているところです。今後、必ずや実を結び、学力向上が結果として表れてくれるものと確信しております。

②の学校教育活動支援員の配置ですが、主に、特別支援が必要な児童・生徒のために、支援員を配置し、児童・生徒の指導に当たっています。今年度は5校に13名を配置しております。近年、特別な支援が必要な子どもたちは増加傾向にあり、その対応に苦慮しているところです。今後、支援員の増員も視野に入れた検討が必要であり、吉田町長のご理解をいただければと思っています。

③のALTによるイングリッシュサロン、いわゆる英会話教室の開催ですが、昨年度から、ALTが3人体制となり、学校での外国語指導助手としての役割のほか、町民全体を対象に英会話教室を毎週水曜日の夜に開催しています。

なお、来年度から新しい小学校学習指導要領が全面実施となり、小学3・4年生では、英語に慣れ親しむことを目標にした「外国語活動」が、小学5・6年生では英語の基礎を身に付けるため、正式な教科として「外国語」が、いよいよスタートします。

ALTには、当町の児童・生徒の英語力アップに貢献してもらいたいと期待しております。何よりも子どもたちがネイティブな本物と接することは、効果が高く、子ども達にとってもよい経験になっています。

④のICTを活用した授業改善では、教育内容の一層の理解と効率化等の観点から、ICT化が求められているところであり、教員のICT機器の活用能力を検証しながら、調査・研究を進めたいと考えています。10月には吉田町長も同行し、先進地等の視察を計画しているところであり、ICT化は今後の大きな課題の一つと捉えています。

これらのほか、中高合同進路講演会や中学生大学見学会などを実施し、社会的職業的自立を目指す、いわゆるキャリア教育の推進に努めております。

(3)の豊かな心の育成について、①の中学生海外交流事業の推進については、去る8月1日から6日まで、キタリー町からの訪問団を受け入れしました。その際、関係各方面に大変お世話になりました。ご協力に感謝しているところです。ホームステイ家族を中心とした「事後アンケート」では、いくつか改善の提案があったほかは、おおむね良い評価をいただいております。

また、派遣については、今後は六戸町単独事業となります。グローバル社会の将来を担う子どもたちにとって有意義なものとなるよう、様々、工夫をしながら事業を進めて参りたいと考えております。

②③の小・中学生の芸術鑑賞会につきましても、町が主催事業として行っているのは非常に稀なケースだと思います。創造力豊かで持続可能な社会の担い手の育成に大いに役立てたいと考えておりますので、吉田町長の一層のご理解をお願いできればと思います。

(4)の健やかな体の育成については、①の町民運動会や、先日、大いに盛り上がりました②の小学校陸上競技大会など、こだわりを持った取組は子どもや町民の元気につながるものと思います。

また、③の各種スポーツ大会への出場費補助は、それぞれにとって、とても助かっているものと思われます。スポーツ振興に直結するものと考えます。

さらに、④のキッズ・アスリート・アカデミーの開催については、幼児・保護者をはじめスポーツ少年団のメンバーや指導者を対象に、体を巧みに動かす、いわゆるコーディネーション・トレーニングの方法を伝授することで、運動能力の向上と運動の習慣化が小さい頃から

図られ、まさに、健やかな体の育成に大いに役立っているものと自負しております。

3 ページになりますが、(5) の不登校の未然防止と早期発見・早期対応について、不登校は当町の大きな課題の一つです。今年度は、現時点で、欠席 30 日を超えている、いわゆる不登校の児童・生徒数は、中学生に 7 名おります。この数は決して少なくないと捉えております。

①の町の「不登校対策の行動指針」に基づき対応しているところであり、吉田町長の絶大なご理解のもと、今年度から町として適応指導員を配置し「メイプル・ルーム」と称して、③の適応指導教室を開設しました。

現時点では、中学生 2 名が通級しており、ほかに通級を考えている生徒も何名かいる状況となっております。

④の教育相談員についても町の予算で配置しています。また、今年度から教育委員会だけではなく、町の福祉課の協力をいただき、さらには、⑤の県の事業ではありますが、町に配置されたスクール・ソーシャル・ワーカーにもお手伝いいただき、不登校はもちろん、生徒指導にかかわる⑦の個別検討会議等を開催しております。積極的かつ丁寧に対応を行っているところです。

(6) のいじめ行為の未然防止と早期発見・早期対応について、①の町いじめ防止基本方針に基づき、組織的・積極的な対応を行っております。これまで同様、②の「いじめアンケート調査」を各校で、少なくとも学期に 1 回実施するとともに、今年度から新たなシステムとして実施の③のいじめ速報カード、これは、いじめと疑われる事案が発生した場合には、直ちに教育委員会に報告することにして、学校と教育委員会が密接に協力して、いじめ防止及び早期発見・早期対応に努めております。

また、④のいじめ問題 連絡協議会や⑤のいじめ問題対策審議会からご助言をいただきながら、「いじめは決して許さない」という視点に立って、いじめへの対応を行っております。

(7) の特色ある学校運営について、各校ともに持ち味を生かしながら、教育課程を編成し、日頃の教育活動に取り組んでおります。教育委員会はその応援団として、各校をしっかりサポートしています。とりわけ、吉田町長の肝いりである「教育力 20%アップ事業」を推進しています。各校では、いじめ予防への取組、修学旅行で町の特産品の PR、夢に向かって明日を開く講話会、子どもたちの情操を育むための花壇整備等、様々な取組を展開しています。

さらには、町内すべての学校で、今年度から②のコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を立ち上げ、学校・保護者・地域が一体となった取組を鋭意推進しております。当面、継続して取組むこととしておりますので、吉田町長の一層のご理解とご支援をお願いいたします。

4 ページになりますが、(8) の学校教育活動の公開について、少し前のことになりますが、学校が社会に対して閉鎖的であるという指摘をしばしば耳にすることがありました。

子どもの成長や人材育成には学校・家庭・地域社会が互いに連携・協力することが不可欠であり、学校についても風通しの良い、いわゆる「開かれた学校」でなければならないということで、様々なメディアを通して、学校から多くの情報を発信するとともに、地域の皆さんを招き入れることが大切であります。

各校とも多彩な取組を行っており、教育委員会もそれを支援しています。コミュニティ・スクールもその一環であると考えています。以上が、学校教育についてです。

資料 4 ページに 2 番になります社会教育、5 ページに 3 番図書館についてまとめております。

QOL、生活の質の向上を図り、生きがいを実感できる社会教育の推進を図ってまいりたいと考えております。

ここでは、とりわけ、図書館の取組として①の学校図書充実への協力についてですが、今年度、児童・生徒の読書意欲向上を図るため、学校に町立図書館の委託職員を派遣し、学校の図書室の環境整備を行っています。

学力向上はもちろん、子どもたちの情操を養うためには、読書は極めて有効な手段である

と考えております。

5 ページには、4 番スポーツについて記載しております。

生涯に渡り、心身ともに健康で、ここでも QOL の向上を目指して、各種施策や事業の充実に努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

最後になりますが、6 ページの 5 番の教育関連施設・設備の整備・充実については、ハード面のメンテナンスになりますが、施設・設備の経年劣化等を考慮して、計画的に整備を進めていく必要があると考えております。

以上、結果といたしまして、吉田町長へのお願いが多かったように思いますが、これで、「教育大綱の具現」についての説明を終わります。ありがとうございました。

(長谷教育課長)

ここからは質疑となります。よろしく申し上げます。

(吉田町長)

教育関係は「ノー」と言えない。普通にやっていくために必要なものがあります。子どものためには成長する過程で必要なことがありますので、実現できることはやってあげたい。

(山本教育委員)

平成 27 年から 5 箇年ということですが、「教育力 20 パーセントアップ」というふうにやってきましたが、私的にはスローガンの感じで捉えています。この大綱そのものが、どちらかといえば総合計画で、それを検証して、計画的に何パーセントアップしたとか、そういう具体化できない数値化できないものが、かなり多いと思う。5 年たった時に、1 パーセントの目標に対して、どのぐらい伸びたのかとか、そういう結果的なものは捉えにくいと思っています。次の大綱にも同じようなスローガンの 20 パーセントとかが出てくるのでしょうか。

(吉田町長)

20 パーセントアップのことは、数値で表していますが、それで示してくれというものではありません。実際のところ、今やっている漫然としたものを変えて欲しいということが前提にあります。子ども達が前に進むため、スポーツや勉強、それぞれいろいろなものを数値で語らないとわかりにくい。言葉だけだとわかりにくい。そこでスローガンの、何とかしようと思った。結果はどうなるのかと思いますが、皆さんの努力の結果が現れてきていると思います。受験の内容を見てもがんばっていることがわかる。スポーツでもこれまで出たことのないような大会に出場してみたりしている。5 年たってスローガンとしてやってきた時に、時代の変化もあります。少なくとも 5 年前に比べたら、皆さんがこうなったという成果が 1 割か 2 割か、もしくは 3 割かもしれないけど、みんなの意識が変わり、向上心が高まってきたというのであればスローガンを掲げて良かったと言える。これを終わった後も続けるかは別としても、少なくとも、しっかりとやってきていると感じている。後退はしていないと思う。

(山本教育委員)

わかりました。

(瀧口教育長)

私も 2 年前にこの職をいただいて、20 パーセントのことを考えました。何の指標かなと思いました。なかなか難しいと思いました。工藤校長先生どうですか。

(校長会工藤会長)

もちろん学力のことは、意識しております。今日、この会議の前に子ども達が環境整備をやってくれていました。それも、やりなさいということではなくて、ボランティアカードみたなものがある、それを持って行って、昼休みにやってくれるかなということをやっております。私も 2 年目になりますが、もちろん学力も意識しなければなりませんが、一校長としては、六戸の子ども達が 2 割、ここに残って欲しいなという想いはあります。それで、来年、本校は 50 年目になります。校舎も古いですが、その 20 パーセントアップ事業を全校で、

環境整備をそろえようとして、職員は職員で、一人一人に何が必要か提出してもらいました。学校として、一体で取り組む。それから、本校でできるとすれば、子ども達が学校の環境をきれいにしようとか、11月にありますメイプルタウンフェスタにボランティアとして参加しようとか、そういう側面から教育力20パーセントアップということを考えております。

(吉田町長)

まさに、そのとおりだと思います。少し確認したいことがあります。先生方が東成瀬村に行っていて、どう感じているのか。東成瀬村と学校の状況は違いますが、どういう捉え方をしているのかなと思います。

(瀧口教育長)

私も行ってありますが、工藤校長先生はどうですか。

(校長会工藤会長)

教頭が行き、教務主任が行き、それから2年生の学年主任が行き、今、広がりを見せつつあります。先生方が一つとなって取り組むことが子ども達のためになると思っているので、そこをベースに考えていましたので、すごく勉強になりました。それぞれの立場で教務主任は教育を研究する立場にありますし、学年主任は実際、子ども達を動かすとか、がんばりつつあります。

(吉田町長)

研修の成果はあったようですね。先生方が一皮むけた考え方になったようであれば、いくらでも効果があったようですね。

(瀧口教育長)

間違いなく、行ってきた先生方は感じとってきていると思います。校内での発表とか、4月の全体の研修会で発表しています。学校の授業参観に行っていますが、変わってきています。時間はかかるかと思いますが、変わってくると思います。

(吉田町長)

中学生の海外派遣はどんな感じですか。今回から単独で行う事業ですから。

(瀧口教育長)

保土沢委員いかがですか。

(保土沢教育委員)

高校2年の娘が、行かせていただきましたが、英語はどうかわかりませんが、実際に行ってみて、目と耳で感じてきたものは、違うなという感覚でした。今、高校で短期留学しましたが、またもう一回海外に行ってみたいというような意欲になっています。本当に行かせていただきたいと思います。

(吉田町長)

そういう子ども達が増えると事業をやってきて良かったと思います。

(下田教育委員)

本当に良い事業だと思います。

(吉田町長)

六戸町は、生徒は少ないです。だから六戸町は教育に集中できます。以上です。

(長谷教育課長)

あと質疑はありませんか。ないようですので、以上をもちまして六戸町総合教育会議を終了します。